

# 国語科

## 1. 「国語表現」について

齊藤真子

### 1. はじめに

「国語表現」のテキストが完成し年度途中からではあるが授業で使用できたこととスピーチの授業に対する生徒の取り組みに質的变化がみられたことの二点について、今後への展望も含めて報告したい。

### 2. 「国語表現」テキストについて

高三における本校の年間計画にそってつくられたテキストであるため今年度使用した教官三人からは、大変授業がやりやすかったという感想がでた。では生徒側からはどうであろうか。年度末のアンケートから、感想のいくつかをまとめてみる。

- (1) テキストのサイズが大きくて鞆やロッカーに入らない。(ほとんどが机の中へ置き放し状態)
- (2) 資料集の文章はよみごたえがあり参考になった。  
イ 活字が小さく内容が難しい。精選してほしい。  
ロ 本多勝一、梅棹忠夫の文章を入れてほしい。  
ハ 先輩の書いたものをもっと入れてほしい。  
ニ ジャンルの違った種々の文章を読みたい。
- (3) スピーチの評価用紙は良い  
イ 3段階より5段階の評価の方が書きやすい。  
    (「やや良い」を入れてほしい。「ふつう」「よい」に迷う。)  
ロ 要旨のスペースをふやしてほしい。  
ハ 一回に三人が聞くのにちょうど良い人数。  
ニ 二回スピーチをやれる様にしてほしい。
- (4) 表紙が丈夫でまがらない。
- (5) 説明はわかりやすいし、先輩の文は親しみやすい。
- (6) 原稿用紙がついているのは便利。

### 3. 「国語表現」の授業方法、内容について

#### (1) 話すことについて

スピーチの授業は話す方が緊張はするが、よい経験とする一方、聞く方も話手の個性や人間性を発見できて楽しく興味深いものと受けとめている。「国語表現」らしいと一番感じる授業のようだ。

##### 〈感想1〉

スピーチはふるえるほど緊張したし、準備が大変だったがやった価値はあったと思う。人の考え方とか、

過去にこんなことがあって苦労したなど面白かった。留学体験談は時間を忘れて聞いた。私は演劇サークルなので、人前で話すなんて、チョロイと思っていた。しかし、演劇は自分とちがう人物を作り出すけれど、スピーチは自分自身をそのまま、ということでは上がってしまったのだろう。

##### 〈感想2〉

スピーチを通して、自分の考えを人に話すことに抵抗を感じなくなり、人間関係にも良い影響をもたらした。他のクラスの子のスピーチを聞きたかったので、来年は3クラス合同のスピーチ大会をぜひやってほしい。

##### 〈感想3〉

スピーチは必ず自分にプラスになるものが得られるので永遠(?)に続けて下さい。他に電話での話し方や敬語の使い方を実践的にやりたい。また、対談や討論も面白いと思う。

#### (2) 書くことについて

日記や手紙より要約や小論文にもっと多くの時間が必要である。そして高1、高2の時から論理的な文章を書く練習をつみ上げることが、大学入試の小論文や面接に役に立つといえる。

##### 〈感想1〉

書くことは継続が大切だと思った。練習すれば、うまくなるが、書かなければすぐ下手になってしまう。目上の方に出す手紙はもっと練習が必要であると感じました。小論文は二年のうちから練習すれば文系にも理系にも役立つと思う。小論文でもたくさん書くうちに「とにかく書いてみよう」という気楽な気持ちになり、自分の言いたい事を素直に表現することができるようになるのです。国語表現の授業を通して、書くことが前より好きになりました。

##### 〈感想2〉

手紙は苦労した。しかし要約が一番むずかしかった。時間が足りなかった。小論文は文章を頭の中でまとめる練習ができたが、時間制限の厳しさが身にしみた。

##### 〈感想3〉

要約の授業が多すぎ、その分、論旨の展開とか論理や修辞の授業が少なかった。

#### 4. スピーチの授業への取り組みにみられる生徒の質的变化について。

年度末のアンケートでは、国語表現に対する生徒の意識、取組み、反応等は例年と数値上、それほどの違いはみられないが、三人の教科担任の一致した印象として、特にスピーチの内容、話題にもの足りなさが残った。一学期末の段階でも、同様の感想を出し合い、下書きメモやテーマの選択等で工夫する方向で、指導したのだが、なかなか思うにまかせなかった点があった。その理由は3点あると考えられる。第1は、テーマ(話す題材)の選択の幅の狭さである。第2は話材の展開に工夫がない事である。第3は生徒の知的レベルの低下である。

例年、テーマについては、自由にした方がより幅広い選択を可能にし、内容の深まりが期待できる印象を抱いていた。そして、年度末にスピーチ題目の一覧をみると幅の広さに気付く。もちろんそれは、先に終えた級友と同じテーマで話したくないということで、後の生徒ほどテーマ選びに苦勞するという事であったのだが、本年度は、同じテーマ(例えば、部活、趣味の音楽。ペット。けいこ事)を何人もが取り上げるのでマンネリ気味。唯一例外的に興味深かったのは留学体験談だけである。理系(コンピューター、進化、数学、バイオテクノロジー等)のテーマは皆無であるし、世界状況、国際政治、経済、思想等のテーマも数が少ない。もっぱら現在の高校生活を中心とした話材に限られた感がある。話しやすさを優先したのであろう。

次に第二の話材の展開についてみると、情報を集めたり、資料を比較したり、視点をかえたりすることが少ない。また、若者らしく人類の未来を心配したり、問題点の解決方法を考えたり、自分の生き方や生活を反省する所がない。終始、自分の体験や経験を話すので、それなりに引き込まれるが、広がりや深化はない。下書きメモやスピーチ原稿での指導の徹底が一つの方法であろう。しかし、スピーチではそこまでほり下げて扱わないでよいのだという生徒の姿勢が問題である。

第三点は生徒の学習レベルあるいは知的関心はどうか?という問題につき当たる。生徒自身の高校生活の状況をとらえ直すことから今後のスピーチ指導の在り方を見直していかなくてはならない時期に来ていると考えられる。そして、この問題は「表現」や一教科だけで対応できるものではない。個々の生徒が興味関心をどの方向に向け、日々の高校生活の中でそれを掘り下げ考え続けているか。学校はそういうものをすくい上げかたちあるものにしていくか。「表現」の内実をつくり上げる方策について模索したい。

#### 5. 評価について

従来もテープにとりあとで本人に記念として渡すという事はしてきたが、今年度の試みとして、スピーチの自己評価の一助に、8ミリビデオを利用した。例えば黒板を利用したり、図示したり、みぶりをまじえたりする時には、効果的である。高2の夏にドイツへ演奏旅行をした時の話をしたMさんは、ベルリンの壁について、詳細な地図を示しながら国際情勢の背景に言及した。本人の記念になるだけではなく、来年のスピーチへの導入としても使用できる。

さて、通知表の評価は10段階で総合評価は数字のみである。内訳やコメントはつかない。日頃の小論文要約、感想文、日記、手紙などの評価はABCの3段階にコメントや批評がつくし、スピーチは、評価用紙によって批評と点数を出し生徒による相互評価を加味している。教科担任との相性の良し悪しが評価に影響したという印象を持たせるのではなく、客観的な評価であり、納得がいき、よりよく表現力を伸ばす評価の方法として総合評価に記述式を加味したい。

##### <感想1>

自分の努力に見合っただけのしかし十分すぎるほどの評価をいただきました。ただ、点数化されるのには疑問を持ちます。総合評価には、内訳もつけてほしいと思います。

#### 6. おわりに

テキストについては、改訂を控えているので次のような点を中心に改善したい。

- (1)テキストのサイズをB4→B5へ
- (2)本文の説明語句の調整
- (3)資料集の活字を大きくし、精選する。適切なものに差し替える。(卒業生などの身近な文章に)
- (4)スピーチ評価用紙にミシン目を入れる。
- (5)表紙の紙質を柔らかくする。

また授業方法や授業内容面では、今後テキストを活用する方向で細かい工夫をしたい。一例をあげると、スピーチ評価用紙の評価の集計を合理化するために、出席番号、記入者名、合計欄をつくり、最初にクラス全員に記入させておくこと。

第三の生徒の質的变化については、一年だけで結論づけることは早計であろう。国語科で話し合って今年度実現させたいと考えている事は三クラス合同のスピーチ大会である。他のクラスのスピーチもぜひ聞きたいという希望は生徒からよく聞く。また、高1や高2の下級生に聞かせる方向で検討したい。高三におけるスピーチの授業が、高1、高2と一線を画したもので、話し手にとっても、聞き手にとっても、充実した

中身と意味をもつものとして定着してきたことを大切にしたい。

〈感想1〉

卒業を目の前にして、新しい世界へ旅立とうとする時に、自己を知り、表現できるようになることができた。自分の精神の成長に役立ったといえる。

〈感想2〉

スピーチについては、名大附属らしさがでて、とてもよかったので、続けてほしいと思います。名大附属に国語表現の授業があるということを少し誇りに思います。